令和4年度　自己評価計画

石川県立明和特別支援学校

	重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	ICT機器を活用できる専門性向上と情報発信	①	GIGAスクール構想の考え方を全職員が理解するための研修を行う。	全学部 GIGAスクール構想推進委員会	昨年度全教職員がGIGAスクール構想推進に係る研修を受け、機器の活用の基礎やGIGAスクール構想の意義を理解したところである。今年度は、全学部1人1台タブレットの環境が整ったことから、障害のある児童生徒の障害特性を踏まえた授業を行う際に、集団学習の充実という観点もふまえた積極的な活用が求められる。	【成果指標】 研修等を踏まえ、ICT機器の新たな活用法を身につけ、個々の障害特性に応じた使い方を工夫した授業ができた。	ICT機器の活用法を増やし、個々の児童生徒の障害特性に応じた使い方を工夫した授業に取り組むことができた。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが80％以上で達成】	評価者：教員 9月：アンケートで判定 10月：中間評価分析 年度末：9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
						【成果指標】 研修等を踏まえ、集団学習を充実させることを狙いに置いた1人1台タブレットの活用に挑戦することができた。	1人1台タブレットを個の習熟にとどまらず、集団学習を充実させるための活用に挑戦することができた。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが60％以上で達成】	評価者：教員 9月：アンケートで判定 10月：中間評価分析 年度末：9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
		②	日々の学校生活に係る適切な情報発信を行う。	全学部	ICT活用を含めた教育活動の理解に向けた情報発信として、HP更新やGIGA通信発行などを適宜実施している。その一方で保護者からはより具体的に授業の様子を知りたいとの要望が上がっている。	【満足度指標】 保護者は、本校が授業の様子をはじめとする、学校生活に係る情報発信を適切に行っていると受け止めている。	来校の機会や、HP、家庭通信、学年だより、連絡帳等で提供された情報をとおして、児童生徒の授業の様子や学校生活への理解が深まった。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが85％以上で達成】	評価者：保護者 アンケート評価により判定（半期ごと）
2	教科指導及び実践力の向上	①	「特別支援学校における教科指導充実事業」が実施されることを踏まえ、教職員全体で学校研究を推進することを目指す。	全学部 研究研修課	本校ではここ数年、文科省の実践研究の成果を実践を通して深めてきたが、今年度より県新規事業が実施されることになった。研究授業の指導細案作成に係る「単元構想」「指導案検討」「模擬授業」「授業整理会」「評価」の一連の流れに全員が関わることを通して、教科指導の専門性を一層高める必要がある。	【成果指標】 研究授業の指導案作成に係るプロセスに主体的に関わることで、教科の視点による授業の構想・実践が理解できた。	研究授業実施に向けた学部内の指導案検討や研究授業参観等を通して、教科の視点で授業を構想することや実践・評価の意義を理解することができた。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが80％以上で達成】	評価者：教員 9月：アンケートで判定 10月：中間評価分析 年度末：9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
3	コロナとの共生を意識した安全安心な学校運営	①	児童生徒・職員ともに今一度「新しい生活様式」の定着に向け取り組むことで、コロナ禍にあっても安全安心な教育活動の実現を目指す。	全学部 保健安全課 指導課	今年度もコロナ禍の中、学校生活を送ることとなるため、児童生徒に対して障害特性を踏まえた適切な感染防止の指導を行っている。マスクを着用できる児童生徒もかなり増えているため、手洗いや黙食、人との距離という点において、さらに自ら予防できる習慣を身につけさせていく。	【満足度指標】 学校の感染症対策は子どもの特性を踏まえて適切に行われており、子どもは予防に対する意識が身についてきている。	学校の感染症予防に係る児童生徒への指導は、子どもの障害特性に応じて適切に行われており、子どもの予防に対する意識も見られるようになった。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが80％以上で達成】	評価者：保護者 アンケート評価により判定（半期ごと）
		②	体力づくりの充実等を通して、転倒しない体力・体幹を身につけるとともに、教育環境を整えることで、転倒によるけがなどの予防に努める。	全学部 保健安全課	令和3年度の保健安全課の調査から、怪我が発生しやすい時期や時間帯、原因などが分かった。今年度は、体力づくりや体育の時間などをとおして、体力や体幹を身につけるとともに、教育環境にも一層配慮し整えていくことで、転倒などによる怪我の発生件数を少しでも抑えるように努める。	【成果指標】 体幹を鍛え、転倒防止につながる運動や活動に意識して取り組ませたり、環境の整備に努めたりしたことで、児童生徒が怪我をすることが少なくなった。	体力・体幹を鍛える指導や環境整備に努めた結果、同月比や同時間帯比の事故発生件数が減少している。 A：前年度より20%減少した B：前年度より10%減少した C：前年度より5%減少した D：前年度とほぼ変わらなかった	【Aで達成】	評価者：教員 9月：保健安全課調査中間結果で判定 10月：中間評価分析 年度末：1月までの保健安全課調査結果で判定し、最終評価分析
		③	保護者や来校者に対する教職員の丁寧な対応をさらに励行する。	全学部 事務職	教職員からの主体的で丁寧な挨拶や言葉遣いは概ねできていると思われるが、今後も丁寧でわかりやすい説明や、相手を尊重した言葉遣いに努めることで、保護者や来校者がより安心できる学校づくりを目指していく。	【満足度指標】 保護者や来校者に対する教職員の応接態度が丁寧で気持ち良いものであると感じる。	教職員の挨拶や電話対応、懇談での説明などの対応は、丁寧で気持ちの良いものである。 A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【A＋Bが80％以上で達成】	評価者：保護者 アンケート評価により判定（半期ごと）
4	業務改善 （業務の効率化、平準化）	①	業務改善に向けて、今年度はICT支援員の力も借りながら、分掌業務のデジタル化をさらに推進し効率化を進め、特定の教員や時期に集中しがちな業務を分担して行うようにする。	全学部 各課 教育相談部 自立活動部 県特研事務局	勤務時間記録表においては、時間外勤務時間数は減少しているが、特定の時期や教職員に時間外勤務が集中している状況が見られる。分掌において業務の進捗状況を視覚化し、分掌業務のデジタル化をさらに推進することで、業務の効率化を図る必要がある。	【成果指標】 各学部、各課において、デジタル化を推進し、業務の効率をあげることができた。	業務がデジタル化したことで作業効率が良くなったと感じている教員の割合が A：80％以上 B：65％以上 C：45％以上 D：45％未満	【Bで達成】	評価者：教員 9月：アンケートで判定 10月：中間評価分析 年度末：9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析